

第3学年

令和元年度

シラバス

赤門鍼灸柔整専門学校

柔道整復科第二部

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科第二部3年
科目名	整形外科学	曜日・時間	土曜日・1時限

【授業概要・目標】

概要：前期では総論として、整形外科の診察法、検査法、治療法および整形外科が扱う運動器の外傷・疾患について学ぶ。後期では主に身体部位別に運動器の外傷・疾患についての理解を深める。目標：整形外科が扱う主要な外傷・疾患の要点を述べる事が出来る。

＜前期＞		＜後期＞	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	整形外科とは (1)	1	部位別各論/体幹/頸部 (1)
2	整形外科とは (2) 運動器の基礎知識	2	部位別各論/体幹/頸部 (1)
3	整形外科診察法 (1)	3	部位別各論/体幹/腰部 (1)
4	整形外科診察法 (2)	4	部位別各論/体幹/腰部 (2)
5	整形外科検査法	5	部位別各論/肩甲帯および上肢の疾患/ 肩・肩甲帯
6	整形外科的治療法	6	部位別各論/肩甲帯および上肢の疾患/ 上腕・肘関節
7	骨・関節損傷総論	7	部位別各論/肩甲帯および上肢の疾患/ 前腕 手関節
8	感染性疾患 骨および軟部腫瘍	8	部位別各論/肩甲帯および上肢の疾患/ 手・手指
9	非感染性軟部・骨関節疾患	9	部位別各論/骨盤および下肢の疾患/骨 盤・股関節 (1)
10	全身性の骨・軟部疾患 骨端症	10	部位別各論/骨盤および下肢の疾患/骨 盤・股関節 (2)
11	四肢循環障害 神経筋疾患 (1)	11	部位別各論/骨盤および下肢の疾患/大 腿・膝関節 (1)
12	神経筋疾患 (2)	12	部位別各論/骨盤および下肢の疾患/大 腿・膝関節 (2)
13	神経筋疾患 (3) リハビリテーション (1)	13	部位別各論/骨盤および下肢の疾患/下 腿・足関節
14	リハビリテーション (2)	14	部位別各論/骨盤および下肢の疾患/ 足・足趾
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	定期試験、小テスト他
授業の進め方	パワーポイントを使用し授業を進める。
注意 (学生に望むこと)	テキストの次回講義予定項目の部分を、事前に読んでおくこと。
使用テキスト・参考書	テキスト：整形外科学 南江堂、参考書：標準整形外科学 医学書院

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科第二部3年
科目名	リハビリテーション医学	曜日・時間	土曜日・3時限

【授業概要・目標】
柔道整復師として必要なリハビリテーションの知識や治療技術の習得を目標とする

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	リハビリテーション医学の歴史と発展	1	肢体不自由
2	リハビリテーション医学の展開	2	肢体不自由
3	リハビリテーション医学の関連職種	3	疾患① 脳血管障害
4	リハビリテーション医学の現状と課題	4	疾患② 脊髄損傷
5	評価法① 姿勢評価と歩行分析	5	疾患③ 小児疾患
6	評価法② 身体計測（四肢長・四肢周径）	6	疾患④ 関節リウマチ
7	評価法③ 関節可動域・徒手筋力検査	7	疾患⑤ 糖尿病
8	評価法④ 日常生活動作評価・協調性テスト	8	疾患⑥ 切断
9	運動療法① 運動療法の種類と内容	9	疾患⑦ 精神疾患（うつ病）
10	運動療法② 上下肢の運動療法	10	疾患⑧ 整形外科疾患（骨折・変形性関節症）
11	運動療法③ 体幹の運動学療法	11	疾患⑨ スポーツ傷害
12	治療法① 運動療法・作業療法・言語療法	12	生活習慣病の原因と予防
13	治療法② 物理療法・補装具	13	高齢期の身体変化と介護予防
14	前期講義のまとめ	14	後期講義のまとめ
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	試験の点数・レポート課題・出席状況等により総合的に判断する
授業の進め方	テキストと配布資料等を用いて行います
注意（学生に望むこと）	各回ごとに資料を配布するのでファイル等で管理すること
使用テキスト・参考書	リハビリテーション医学（南江堂）

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科第二部3年
科目名	柔道整復臨床実技Ⅰ	曜日・時間	土曜日・2時限

【授業概要・目標】

練習問題を実施し、わからない部分の把握、実技の練習・習得

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	肩の軟損実技、(柔整練習問題 No.1)	1	全体実技練習、(柔整練習問題 No.16)
2	肩の軟損実技、(柔整練習問題 No.2)	2	全体実技練習、(柔整練習問題 No.16)
3	大腿の軟損実技、(柔整練習問題 No.3)	3	全体実技練習、(柔整練習問題 No.18)
4	膝の軟損実技、(柔整練習問題 No.4)	4	全体実技練習、(柔整練習問題 No.19)
5	膝・下腿の軟損実技、(柔整練習問題 No.5)	5	全体実技練習、(柔整練習問題 No.20)
6	足の軟損実技、(柔整練習問題 No.6)	6	全体実技練習、(柔整練習問題 No.21)
7	脱臼の固定実技、(柔整練習問題 No.7)	7	症例、骨折・脱臼・軟損1、(柔整練習問題 No.22)
8	脱臼の固定実技、(柔整練習問題 No.8)	8	症例、骨折・脱臼・軟損2、(柔整練習問題 No.23)
9	軟損の固定実技、(柔整練習問題 No.9)	9	症例、骨折・脱臼・軟損3、(柔整練習問題 No.24)
10	軟損の固定実技、(柔整練習問題 No.10)	10	症例、骨折・脱臼・軟損4、(柔整練習問題 No.25)
11	軟損の検査実技、(柔整練習問題 No.11)	11	症例、骨折・脱臼・軟損5、(柔整練習問題 No.26)
12	脱臼の固定実技、(柔整練習問題 No.12)	12	症例、骨折・脱臼・軟損6、(柔整練習問題 No.27)
13	軟損の固定実技、(柔整練習問題 No.13)	13	症例、骨折・脱臼・軟損7、(柔整練習問題 No.28)
14	全体実技練習、(柔整練習問題 No.14)	14	症例、骨折・脱臼・軟損8、(柔整練習問題 No.29)
◆	前期試験(試験監督は教職員・専任教員)		
15	評価点検評価点検後期試験解説、(柔整練習問題 No.15)	15	

評価の方法	練習問題結果、定期試験結果、実技試験結果、毎回の宿題結果
授業の進め方	練習問題でわからない・あやふやなところの把握、レポートの提出、実技練習
注意(学生に望むこと)	問題を解くだけでなく、わからない・あやふやなところの把握、実技練習を繰り返し習得
使用テキスト・参考書	柔道整復学・理論編、柔道整復学・実技編、認定実技審査要項、整形外科学、包帯固定学、整形外科テスト法、赤門柔道整復学、整骨学、神中整形外科、解剖学、アスレチックトレーナー・テキスト等

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科第二部3年
科目名	柔道Ⅲ	曜日・時間	金曜日・1時限

【授業概要・目標】
柔道Ⅱに引き続き、「投の形」の習得に乱取り練習を含めた授業を進めます。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	柔道実技の目標、認定実技審査について	1	柔道実技の目標、認定実技審査について
2	投の形 手技(浮落、背負投、肩車)指導、練習	2	柔道実技の目標、認定実技審査について
3	投の形 腰技(浮腰、払腰、釣込腰)指導、練習	3	認定実技審査内容の指導、練習一②
4	投の形 足技(送足払、支釣込足、内股)指導	4	認定実技審査内容の指導、練習一③
5	投の形 手技(浮落、背負投、肩車)指導、練習	5	認定実技審査内容の指導、練習一④
6	投の形 腰技(浮腰、払腰、釣込腰)指導、練習	6	認定実技審査内容の指導、練習一⑤
7	投の形 足技(送足払、支釣込足、内股)指導	7	固技の動作(攻め方、守り方)
8	乱取り実技指導、練習一①	8	絞技指導、実践 落ちた場合の対処法
9	乱取り実技指導、練習一②	9	関節技(逆技)指導
10	乱取り実技指導、練習一③	10	寝技総合練習、指導
11	礼法、受け身、投の形、約束乱取復習及び練習	11	掛かり練習(打ち込み)、自由練習(乱取)
12	礼法、受け身、投の形、約束乱取復習及び練習	12	柔道の試合と礼法・礼節
13	前期実技試験内容説明、練習	13	後期実技試験内容説明、練習
14	前期実技試験一①	14	後期実技試験一①
◆	前期試験(試験監督は教職員・専任教員)		
15	評価点検実技試験評価点検、柔道の歴史や変遷	15	

評価の方法	実技試験、授業態度、出席日数にて総合評価する。
授業の進め方	前期：「投の形」の高度な習得に重点を置きます。後期：認定実技審査に対応しての指導をします。
注意(学生に望むこと)	柔道実技では怪我をしないように毎回真剣に取り組むことを望みます。
使用テキスト・参考書	「投の形」と投技(乱取り)は講道館のDVDおよびビデオを使用します。

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科第二部3年
科目名	柔道整復臨床実技Ⅱ	曜日・時間	金曜日・2時限

【授業概要・目標】
柔道整復に必要な技術、知識の習得

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	オリエンテーション	1	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 1
2	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 1	2	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 1
3	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 2	3	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 3
4	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 3	4	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 4
5	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 4	5	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 5
6	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 5	6	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 6
7	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 6	7	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 7
8	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 7	8	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 8
9	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 8	9	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 9
10	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 9	10	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 10
11	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 10	11	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 11
12	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 11	12	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 12
13	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 12	13	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 13
14	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 13	14	総合 - 1
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価・点検	15	

評価の方法	実技試験、出席、授業態度、課題提出、筆記試験の総合で判定する。
授業の進め方	実技、内容の確認
注意（学生に望むこと）	毎回内容の予習と復習をしっかりとすること。
使用テキスト・参考書	柔道整復学理論編 柔道整復学実技編

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科第二部3年
科目名	外科学概論	曜日・時間	月曜日・1時限

【授業概要・目標】

前期は外科学の基礎となる総論的な事項を、後期は実臨床において遭遇することが多い代表的な外科疾患を各臓器別に、授業で扱っていく。実際、筋肉痛と思いきや来院した背部痛や肩の患者さんが胃潰瘍や胆石症であった事例などもあるので、基礎的なことを習得することを目標とする。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	外科総論	1	脳外科
2	熱傷	2	脳外科
3	炎症・感染症	3	甲状腺・胸壁
4	腫瘍	4	肺疾患
5	腫瘍/症状から	5	心臓、心膜炎まで
6	ショック・輸血	6	心臓、虚血性心疾患から
7	輸液	7	乳腺
8	消毒・手術	8	腹部外科解剖生理
9	麻酔	9	腹部症状・検査
10	局所麻酔	10	食道・胃
11	移植	11	大腸
12	出血・止血	12	肝胆膵
13	心肺蘇生	13	ヘルニア・肛門
14	前期まとめ	14	後期まとめ
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	定期試験
授業の進め方	講義形式
注意（学生に望むこと）	
使用テキスト・参考書	外科学 医歯薬出版

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科第二部3年
科目名	関係法規	曜日・時間	木曜日・2時限

【授業概要・目標】

国民の保健・医療・福祉の増進のため、柔整学校師の役割及び職業倫理を学ぶ。具体的には、生命倫理や人権の諸問題にも目配りしつつ、柔道整復師法その他関係法令の学習を行い、これを通じて柔道整復師として備えるべき法的思考を身につける。

＜前期＞		＜後期＞	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	「関係法規」について	1	柔道整復師法・沿革
2	法学の基礎	2	柔道整復師法・沿革
3	医療制度と法	3	柔道整復師法・資格法（1）
4	医療法（1）	4	柔道整復師法・資格法（2）
5	医療法（2）	5	柔道整復師法・資格法（3）
6	医療法（3）	6	柔道整復師法・資格法（4）
7	地域保健法	7	柔道整復師法・業務法（1）
8	医師法（1）	8	柔道整復師法・業務法（2）
9	医師法（2）	9	柔道整復師法・施術所（1）
10	医師法（3）	10	柔道整復師法・施術所（2）
11	その他の医療関係者と法（1）	11	医業類似行為
12	その他の医療関係者と法（2）	12	その他の関係法令（1）
13	その他の医療関係者と法（3）	13	その他の関係法令（2）
14	その他の医療関係者と法（4）・復習	14	その他の関係法令（3）・復習
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	前期及び後期の試験によって評価する。
授業の進め方	レジュメ（プリント）を配布し、これに従い可能な限り平易に進めたい。
注意（学生に望むこと）	講義を聴き、ノートをとる。法令の条文に慣れ、地道に予習と復習を行うこと。質問を厭わないこと。
使用テキスト・参考書	最新版の医療六法（中央法規）必携。参考書として、全国柔整学校協会監修・前田和彦編著「関係法規」最新版。

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科第二部3年
科目名	柔道整復臨床理論Ⅰ	曜日・時間	水曜日・2時限

【授業概要・目標】

柔道整復術・学の歴史と基礎理論、基本包帯法を習得する。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	オリエンテーション 授業について	1	Ⅱ-5. 各組織の損傷（骨の損傷、骨折の合併症）
2	Ⅰ. 概説（沿革と倫理綱領）	2	Ⅱ-5. 各組織の損傷（骨の損傷、骨折の合併症）
3	Ⅱ-1. 人体に加わる力	3	Ⅱ-5. 各組織の損傷（骨の損傷、骨折の癒合日数）
4	Ⅱ-2. 損傷時に加わる力	4	Ⅱ-5. 各組織の損傷（骨の損傷、骨折の治癒経過）
5	Ⅱ-3. 痛みの基礎	5	Ⅱ-5. 各組織の損傷（骨の損傷、骨折の予後）
6	Ⅱ-4. 各組織の損傷（骨の損傷、骨の形態と機能）	6	Ⅱ-5. 各組織の損傷（骨の損傷、骨折の治癒に影響を与える因子）
7	Ⅱ-4. 各組織の損傷（骨の損傷、骨損傷の概説）	7	Ⅱ-5. 各組織の損傷（関節の損傷、関節の構造と機能）
8	Ⅱ-4. 各組織の損傷（骨の損傷、骨折の分類）	8	Ⅱ-5. 各組織の損傷（関節の損傷、関節損傷の分類）
9	Ⅱ-4. 各組織の損傷（骨の損傷、骨折の分類）	9	Ⅱ-5. 各組織の損傷（関節の損傷、関節構成組織損傷）
10	Ⅱ-4. 各組織の損傷（骨の損傷、骨折の分類）	10	Ⅱ-5. 各組織の損傷（関節の損傷、その他関節構成組織損傷）
11	Ⅱ-4. 各組織の損傷（骨の損傷、骨折の症状）	11	Ⅱ-5. 各組織の損傷（関節の損傷、脱臼）
12	Ⅱ-4. 各組織の損傷（骨の損傷、骨折の症状）	12	Ⅱ-5. 各組織の損傷（関節の損傷、脱臼）
13	Ⅱ-4. 各組織の損傷（骨の損傷、骨折の合併症）	13	Ⅱ-5. 各組織の損傷（関節の損傷、脱臼）
14	前期復習	14	後期復習
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	筆記試験、出席(授業態度含む)などの総合評価
授業の進め方	前回授業の復習をしながら、各回授業に繋げる。
注意（学生に望むこと）	基礎のため、単語の意味を知る事に重点を置く。
使用テキスト・参考書	柔道整復学理論編、包帯固定学

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科第二部3年
科目名	柔道整復臨床理論Ⅱ	曜日・時間	火曜日・1時限

【授業概要・目標】
柔整の臨床に必要な基礎力、応用力をつける。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	診察1 視診 / 骨折総論	1	疾患・柔理総合-1
2	診察2 触診 / 脱臼総論	2	疾患・柔理総合-1
3	診察3 検査法 / 軟損総論	3	疾患・柔理総合-3
4	診察4 症状 / 治療法1	4	疾患・柔理総合-4
5	疾患1 呼吸器疾患 / 頭部・頸部の骨折・脱臼	5	疾患・柔理総合-5
6	疾患2 循環器疾患 / 胸部・上肢の骨折-1	6	疾患・柔理総合-6
7	疾患3 消化器疾患1 / 上肢骨折-2	7	疾患・柔理総合-7
8	疾患4 総合 / 総合	8	疾患・柔理総合-8
9	疾患5 消化器疾患2 / 上肢骨折-3	9	疾患・柔理総合-9
10	疾患6 代謝疾患 / 上肢脱臼	10	疾患・柔理総合-10
11	疾患7 血液疾患 / 上肢軟損	11	疾患・柔理総合-11
12	疾患8 神経疾患 / 下肢骨折	12	疾患・柔理総合-12
13	疾患9 感染症 / 下肢脱臼	13	疾患・柔理総合-13
14	疾患10 リウマチ、アレルギー疾患 / 下肢軟損	14	疾患・柔理総合-14
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	筆記試験、出席、授業態度、課題提出の総合で判定する。
授業の進め方	練習問題を中心に、各ポイントの確認、復習を行う。
注意（学生に望むこと）	教科書の語句を正確に確認すること。
使用テキスト・参考書	柔道整復学理論編・実技編、一般臨床医学教科書、その他参考書。

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科第二部3年
科目名	柔道整復臨床理論Ⅲ	曜日・時間	月曜日・2時限

【授業概要・目標】
柔道整復に必要な技術、知識の習得

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	オリエンテーション	1	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 1
2	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 1	2	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 1
3	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 2	3	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 3
4	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 3	4	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 4
5	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 4	5	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 5
6	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 5	6	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 6
7	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 6	7	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 7
8	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 7	8	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 8
9	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 8	9	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 9
10	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 9	10	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 10
11	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 10	11	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 11
12	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 11	12	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 12
13	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 12	13	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 13
14	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認 - 13	14	総合 - 1
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価・点検	15	

評価の方法	実技試験、出席、授業態度、課題提出、筆記試験の総合で判定する。
授業の進め方	実技、内容の確認
注意（学生に望むこと）	毎回内容の予習と復習をしっかりとすること。
使用テキスト・参考書	柔道整復学理論編 柔道整復学実技編

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科第二部3年
科目名	柔道整復応用実技Ⅰ	曜日・時間	木曜日・1時限

【授業概要・目標】

臨床実技に必要な知識、技術を学び、全員合格をめざす

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	実技試験の解説、DVDで説明	1	模試、認定実技試験に向けての練習
2	鎖骨骨折の整復法、固定法	2	模試、認定実技試験に向けての練習
3	上腕骨外科頸骨折の整復法、固定法（ミッデルドルフ）	3	模試、認定実技試験に向けての練習
4	コーレス骨折の整復法、固定法	4	模試、認定実技試験に向けての練習
5	肩鎖関節脱臼整復法、固定法	5	模試、認定実技試験に向けての練習
6	肩関節脱臼の整復法、固定法	6	模試、認定実技試験に向けての練習
7	肘関節脱臼の整復法、固定法	7	臨床実習
8	肘内障、総練習	8	臨床実習
9	第5中手骨頸部骨折の整復法、固定法	9	臨床実習
10	下腿骨骨幹部骨折	10	臨床実習
11	肋骨骨折	11	臨床実習
12	総練習	12	臨床実習
13	総練習	13	臨床実習
14	総練習	14	後期試験
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	授業態度、課題、定期試験の総合で判断する
授業の進め方	本番に備えて平常で臨めるようにする
注意（学生に望むこと）	授業で学び、練習を徹底して繰り返すこと
使用テキスト・参考書	柔道整復理論、実技書

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科第二部3年
科目名	柔道整復応用実技Ⅱ	曜日・時間	水曜日・1時限

【授業概要・目標】
柔道整復師として業務に従事するために必要な最低限の知識、施術等を習得する。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	一年間の授業計画・進め方・予習について・柔整診察について	1	頸部の軟部組織損傷について
2	柔整診察について・患者受診からカルテ作成	2	頸部の軟部組織損傷について
3	患者受診からカルテ作成について①	3	上腕部の軟部組織損傷(上腕部軟損の最低限の知識)②
4	患者受診からカルテ作成について②・療養費の支給申請書	4	前腕部の軟部組織損傷(前腕部軟損の最低限の知識)①
5	療養費の取扱いと療養費の支給申請書の書き方①	5	前腕部の軟部組織損傷(前腕部軟損の最低限の知識)②
6	療養費の取扱いと療養費の支給申請書の書き方②	6	腰部の軟部組織損傷(腰部軟損の最低限の知識)①、小テスト①
7	柔道整復師と機能訓練指導員について①	7	腰部の軟損②、大腿部の軟部損傷(大腿部軟損の最低限の知識)①
8	柔道整復師と機能訓練指導員について②	8	大腿部の軟部組織損傷(大腿部軟損の最低限の知識)②
9	上肢の骨折(上肢骨折の最低限の知識)	9	下腿部の軟部組織損傷(下腿部軟損の最低限の知識)①
10	上肢の脱臼(上肢脱臼の最低限の知識)	10	下腿部の軟部組織損傷(下腿部軟損の最低限の知識)②
11	下肢の骨折(下肢骨折の最低限の知識)小テスト①	11	足部の軟部組織損傷(足部軟損の最低限の知識)①
12	下肢の脱臼(下肢脱臼の最低限の知識)小テスト②	12	足部の軟部組織損傷(足部軟損の最低限の知識)② 小テスト②
13	実技・確認試験 カリキュラム予備日	13	実技・確認試験 カリキュラム予備日
14	実技・確認試験 カリキュラム予備日	14	実技・確認試験 カリキュラム予備日
◆	前期試験(試験監督は教職員・専任教員)		
15	評価点検評価点検、実技再試験	15	

評価の方法	実技試験、口答試験、授業態度、レポート提出(70%)、筆記試験、その他出席(30%)の総合評価とする。
授業の進め方	授業のテーマを予習(ノート作成)、授業でポイントを確認しながら実技の習熟度を高めていく。
注意(学生に望むこと)	積極的に課題に取り組み知識を獲得、卒業後直ぐに働ける本当の柔道整復師を目指す。
使用テキスト・参考書	柔道整復学・理論編、柔道整復学・実技編、問診・診察ハンドブック、療養費の支給基準、その他配布資料

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	柔道整復科第二部 3年 -
科目名	柔道整復応用実技Ⅲ	曜日・時間	火曜日・2時限

【授業概要・目標】

軟部組織損傷の鑑別診断を中心に症状、検査法等の理解を深め、臨床の現場で実践活用できるようにする。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	膝関節疾患・損傷-01	1	頸部・体幹疾患、損傷
2	膝関節疾患・損傷-02	2	頸部・体幹疾患、損傷
3	膝関節疾患・損傷-03	3	頸部疾患、損傷-02
4	膝関節疾患・損傷-04	4	肩関節疾患、損傷-01
5	下腿部～足関節疾患、損傷	5	肩関節疾患、損傷-02
6	足関節疾患・損傷-01	6	肩関節疾患、損傷-03
7	足関節疾患・損傷-02	7	上肢帯固定法-01
8	足関節～足部疾患、損傷	8	上腕部～肘関節疾患、損傷
9	下肢帯固定法	9	肘関節疾患、損傷
10	腰部疾患、損傷-01	10	上肢帯固定法-02
11	腰部疾患、損傷-02	11	前腕部～手指部疾患、損傷-01
12	腰部疾患、損傷-03	12	前腕部～手指部疾患、損傷-02
13	包帯法	13	包帯法
14	実技試験	14	実技試験
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	実技試験（70%）、筆記試験（30%）
授業の進め方	テーマに沿って理論の確認と実技を行う。
注意（学生に望むこと）	積極的に練習をすること。
使用テキスト・参考書	柔道整復理論、実技書

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	専任教員	学科・年	柔道整復科第二部3年
科目名	臨床実習	曜日・時間	—・—

【授業概要・目標】

①患者と適切なコミュニケーションがとれる。②施術準備（補助）ができる。③基本的な事項について診療録に記載ができる。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	臨床実習前授業（Ⅰ）	1	臨床実習（15）
2	臨床実習前授業（Ⅱ）	2	臨床実習（16）
3	臨床実習（1）	3	臨床実習（17）
4	臨床実習（2）	4	臨床実習（18）
5	臨床実習（3）	5	臨床実習（19）
6	臨床実習（4）	6	臨床実習（20）
7	臨床実習（5）	7	臨床実習（21）
8	臨床実習（6）	8	臨床実習（22）・振り返り
9	臨床実習（7）	9	
10	臨床実習（8）	10	
11	臨床実習（9）	11	
12	臨床実習（10）	12	
13	臨床実習（11）	13	
14	臨床実習（12）	14	
◆	臨床実習（13）	◆	
15	臨床実習（14）	15	

評価の方法	身だしなみ・参加意欲・実習生同士の協調性・患者接遇などを総合的に評価する。
授業の進め方	指導教員の施術見学、施術所の環境整備、施術準備（補助）などを中心に行う。
注意（学生に望むこと）	積極的に実習に参加してもらいたい。
使用テキスト・参考書	なし